

# 世報



## 目次

●巻頭言「大船渡病院からご挨拶」 気仙医師会 副会長 岩手県立大船渡病院 院長 星田 徹… 2	特別講演「日本人の病態と合併症予防を考えた2型糖尿病治療」 演者：岩手医科大学医学部内科学講座 糖尿病・代謝・内分泌内科 教授 石垣 泰 〔腎症関係〕 座長：岩手県立大船渡病院 泌尿器科 参与 氏家 隆
●理事会報告 …… 3 ■令和7年度第3回理事会報告 …… 3 ■令和7年度第4回理事会報告 …… 4	特別講演「かかりつけ医が担う慢性腎臓病（CKD）診療の基本」 岩手医科大学医学部内科学講座 腎・高血圧内科 教授 旭 浩一
●随想 「わが音楽遍歴」 岩手県立大船渡病院 副院長 山田 裕彦… 6 「東北道スタンプラリー」 医療法人盛紀会 鳥羽整形外科医院 院長 鳥羽 有… 7	●令和7年度小児科救急医師研修会【岩手県医師会委託事業】…12 「食物アレルギーとアナフィラキシー：最近の情報と 対応・Take 3」 ～最新の食物アレルギー情報と全年齢層におけるアナフィラ キシー対応およびエビペン（TM）使用の確認～ 独立行政法人国立病院機構 盛岡医療センター 統括診療部長 佐々木 美香
●研修医日記 岩手県立大船渡病院二年度研修医 金野 百合子… 9	●会員の異動 ……13
●気仙学術講演会【令和7年度糖尿病性腎症疾病管理強化対策事業】…10 〔糖尿病関係〕 座長：岩手県立大船渡病院 副院長 久多良 徳彦 一般講演「当院の糖尿病診療チームの取り組み」 演者：岩手県立大船渡病院日本糖尿病療養士 千葉 円	●事務局日記 ……14
	●編集後記・表紙のことば ……16



第171号  
2025. 12. 25

気仙医師会  
岩手県大船渡市盛町字内ノ目6-1  
TEL:0192-27-7727 FAX:0192-26-2429  
<http://kesen-med.or.jp/>

# 巻頭言



## 「大船渡病院からご挨拶」

気仙医師会 副会長  
岩手県立大船渡病院 院長

星 田 徹

前任の中野達也院長を引き継いで、令和7年4月より岩手県立大船渡病院院長を務めております。大船渡病院には平成25年に赴任しており、早いもので13年目になります。これまで、外科診療の他に感染管理や臨床研修の担当もしてきました。医師会の皆様には患者さんの診療は言うまでもなく、感染・臨床研修などの委員会や研修医・医学生の研修受け入れについても大変お世話になっております。また、コロナ禍以前には医師会の野球チームでもご一緒し、皆様とお近づきになる良い機会となりました。今となってはいい思い出です。

令和2年から続いた新型コロナウイルスパンデミックについては、まだ予断は許さないものの、発生状況はある程度落ち着いており、従来の診療体制で対応できている状況です。しかしながら、人口減少、高齢化、物価高騰と診療報酬の不均衡、医師の偏在や医療従事者の人材不足など医療を取り巻く状況は厳しいものがあり、全国的に病院経営が難しくなっています。そんな中でも、大船渡病院は、診療科によっては釜石地域からの集約が進んでいることもあり、基幹病院としての機能を維持しながら、高い病床稼働率を保って経営を改善していく必要があると考えています。そのためにも、これまで以上に地域の医療機関、介護・福祉施設の皆様との連携を深めていく必要を感じています。

ここ数年、当院の研修医が以前と比べて少々減っていたのですが、次年度はやや回復できる見込なのが1つ良いニュースです。将来の医療を担う若手を育て、また若い力をかりて当院も地域も活性化していければよいと思っています。

(1) 令和7年度第5回理事会及び令和7年忘年会に開催について(鳥羽有総務部長)  
以下のとおり開催することで提案があり承認されました。  
第5回理事会  
開催日時: 令和7年12月17日(水)

午後6時30分～  
会場: 大船渡プラザホテル  
令和7年忘年会 理事会終了後開催する。

六 閉 会

# 随 想

## 「わが音楽遍歴」

岩手県立大船渡病院(救命救急センター)  
副院長 山田裕彦

1974年頃まではいわゆる歌謡曲といった曲を聴くことがほとんどであった。あるとき友達が小学校にギターを持ってきて弾いていた曲が当時流行っていた井上陽水やかぐや姫などのフォークソングであった。しかし、その時はそれらの曲には興味がわかなかった。そんな頃テレビのCMだったと思うが、BeatlesのHelpがかかった時に、始めて聴く曲ではないという既視感があった。それからBeatlesの曲を聴きあさるようになり、小遣いのほとんどをレコードに使った。聞くだけでは飽き足らず、Beatlesの曲をギターで弾きたくて、従兄弟からクラシックギターをゆずってもらいギターの練習を始めた。

1977年にラジオ番組でBostonとJourneyの特集をやっており、それまで聴いていた曲とのギャップに驚き、さっそくBostonのDon't Look Backを購入した。Don't Look Backのリードギターパートを聞いた時には、背筋がゾックとするような感覚があったことを憶えている。その後、BostonとJourneyを中心に様々なロックを聴くようになった。

1978年高校入学時にGrecoのセミアコースティックギターを購入した。そのあたりからロックにのめり込み、目覚ましはQueenのKiller Queenで、オーディオのタイマーで始まるのだが、ヴォリュームを大きくしてあるため、イントロの内に起きてヴォリュームを下げないと家族に怒られるようになっていた。家での学習時間も常にオーディオはかけており、Asia・Eagles・Foreigner・Queen・TOTO・Y & Tなどを聞いていた。中でもY & Tは衝撃的で、アルバムジャケットに女性の顔がドアップで出てくるEarthshakerを発売日に購入、ハードだがのりの良いロックンロールといった感じが気に入った。Asiaは1枚目Asiaから購入、龍が出てくるアルバムジャケットも気に入りプログレッシブロックへの扉を開いてくれた。

1981年大学入学で盛岡へ、Black Sabbath・Deep Purple・Def Leppard・Iron Maiden・Kansas・Night Ranger等が加わりさらに広がった。

1995年くらいまではほとんど病院で生活していたためあまり進化しなかった。1996年以降憧れだったGibsonのギターを買うようになり、1999年運命の出会いとなった1959年製のGibson LesPaulを購入、その後もギターを増やして現在13本所有、週末は数時間ほどギターを弾いて過ごしている。

Jeff BeckやOzzy Osbourneなど憧れたミュージシャンが徐々に死亡しており、できるだけライブに行くようにはしている。



## 「東北道の駅スタンプラリー」

医療法人 盛紀会 鳥羽整形外科医院

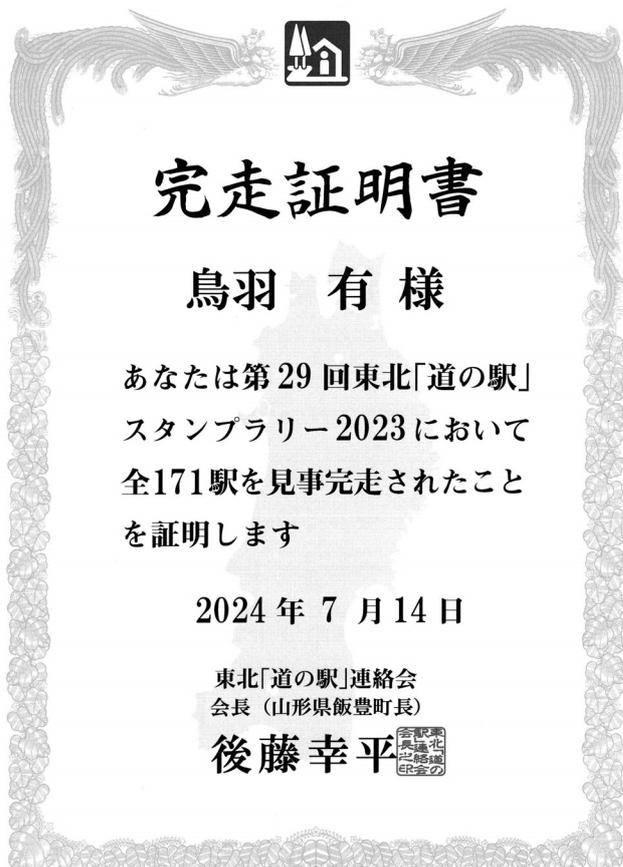
院長 鳥羽 有

コロナ禍が明ける直前の令和5年4月29日祝日の「昭和の日」、八幡平市の産直で妻と買い物をしていた時、「はちまんたい産直レシートラリー」のチラシが目にとまりました。「市内7か所の加盟産直施設で買い物をしてレシート集め、応募すると抽選で最高15,000円分の共通商品券が当たる」というものでした。コロナ禍で外出意欲を抑え込まれていた反動もあり、即断即決で実行。7か所目の「道の駅にしね」で「お客さんが1番最初の申し込みです。当たるといいですね。」と言われながら申し込みをしていた時、今度は「東北道の駅スタンプラリー2023」というポスターが目にと飛び込んできました。スタンプブックを購入して東北各県にある道の駅でスタンプを押印し、171個集めたら道の駅で確認を受け、完走証明書に応募するというものでした。1年で制覇コースと無期限で制覇コースがあり、レシートラリー即日完走の勢いそのままに1年制覇を目標に開始。早速「道の駅にしね」でスタンプを押印しました。

まずはゴールデンウィーク後半の4連休を利用し岩手県制覇を計画。地図を眺めながら東北道、三陸道、釜石道などを利用して効率的なルートを考え、1日10か所を目安に巡りました。結果、連休中に岩手県を達成。勢いそのままに青森・秋田・宮城県制覇を目指しました。土曜の午後と日曜だけの計画では、夜に大船渡へ帰る計算も必要のため思うように進まず、早々に1年制覇を断念し無期制限覇に切り替えました。青森県は東北道、三陸道、みちのく有料道路、下北道などを利用して巡りました。三八上北は巡りやすかったものの下北と津軽が難所で、どちらも行って戻るのが大変なので悩んでいたところ、「むつ湾フェリー」があることがわかりました。下北半島の脇野沢から津軽半島の蟹田まで、車ごと1時間で移動でき、甲板からは岩木山や八甲田山などの眺望を楽しめました。その後、津軽日本海側から秋田県の沿岸北部へと進み、沿岸南部は山形県庄内地方と一緒に後回しに。内陸部は東北道、国道46号、秋田道、東北中央自動車道などを利用して順次巡りました。宮城県は三陸道と仙台東部道路、東北道などを利用し順調に制覇。福島県と山形県は遠いので仙台を拠点にして連休を活用。福島では東北道、東北中央自動車道、磐越道、常磐道を、山形では東北道、東北中央自動車道、日本海東北道などを利用しながら少しずつ攻略。最後は庄内から秋田県沿岸南部を巡り、令和6年7月14日「道の駅しょうわ」でスタンプ数を確認してもらい、完走証明書に応募しました。

スタンプラリーを通じて、東北にはまだ訪れたことのない場所や、数え切れないほどの美しい景色があることを実感しました。むつ湾フェリーからの眺望、海産物でにぎわう道の駅「ふかうら」、人々であふれる「あ・ら・伊達な道の駅」「道の駅ふたつ」「道の駅寒河江」、そして「道の駅ばんだい」からの磐梯山、「道の駅象潟」からの日本海に沈む夕日など数え切れません。また、「道の駅ならは」から「道の駅なみえ」に向かう途中で目にした、大熊町と双葉町の廃墟の光景も忘れられません。震災の記憶は過去のものとなりつつありますが、休業となり雑草に覆われた回転寿司店、大型電気店、紳士服チェーン店、パチンコ店を目の当たりにし、それは「今も続いている現実」なのだと突きつけられました。

道の駅スタンプラリーは収集欲をかき立て、普段は訪れない土地へと導き、達成感を与えてくれる素晴らしい企画だと思います。東北地方以外にも挑戦したいのですが、仕事をしているうちはさすがに無理でしょう。いつか健康でまだ車が運転できるうちに、安全で燃費が良い車で全国の道の駅を巡ってみたい、そんな楽しくも儚い夢を見る今日この頃です。



保養施設利用補助 (一人一泊5,000円) を活用して

## 日頃の疲れを温泉で癒しませんか?

第1位	第2位	第3位
休暇村 <b>網張温泉</b>	網張温泉 <b>ゆこたんの森</b>	花巻温泉 つなぎ温泉 酸ヶ湯温泉 <b>佳松園 四季亭 八甲田ホテル</b>

福利厚生事業とは? 祝金(出産・結婚・年祝)・弔慰金・見舞金・健康診断補助・保養施設/ゴルフ場利用補助 他  
負担金: 組合員4,000円/月 組合員の家族・従業員は一人につき800円/月

担当: 川目  
**TEL. 019-626-3880**  
**FAX. 019-626-3883**

 **いわて医師協同組合**  
IWATE MEDICAL COOPERATIVE ASSOCIATION  
〒020-0024 盛岡市菜園二丁目8番20号 岩手県医師会館内

# 研修医日記



岩手県立大船渡病院 二年次研修医

金野 百合子

県立大船渡病院2年次研修医の金野百合子と申します。いよいよ研修医生活も残りわずかとなりました。

この日誌を書いている今、私は住田地域診療センターで地域医療研修を行っています。研修医の身なので普段は病棟管理がメインな分、新鮮な気持ちで外来診療をさせていただいております。高血圧や糖尿病、脂質異常といった生活習慣病や、その他疾患の外来管理、訪問診療など、学生の頃に思い描いていた地域医療を実際に経験することができて非常に感慨深く思います。

地域医療研修の前は、3カ月にわたって岩手医大の放射線科、呼吸器内科、県立中央病院の呼吸器内科で研修させていただきました。各科の診療や手技を習得できる喜びとともに、他病院の研修医の先生方の診療技術を見て、負けていけない思いが強くなりました。

外部の病院で研修している間、大船渡病院で研修してよかったと思うことが多々ありました。まずは救急対応です。大船渡病院では研修医が率先して救急対応を行うことで、多くの症例を経験することができます。そのため外部の病院での救急対応の際は、物怖じせず、先を見据えた素早い対応をとることができました。救急対応の他にも、病棟管理に関して、大船渡病院で上級医の先生に手厚く指導していただいたおかげで、補液や栄養、循環、呼吸、内分泌などの管理を実践することができました。それからもう一つ、大船渡病院は挨拶がしっかりしているなあと改めて思いました。

2年次の後半に差し掛かったこの時期は、いよいよ進路を決める時期となってきますが、私は呼吸器内科に進むことに決めました。大船渡病院で様々な科を回り、実りある研修をさせていただきましたが、その中で、入院中に管理困難となった肺炎や、胸腔穿刺・ドレナージといった手技など、他から応援に来てくださっている呼吸器内科の先生にご相談させていただくことが何回かありました。そうしているうちに、段々と、自分の手で呼吸器疾患の治療をしたいという意思が芽生え、呼吸器内科に興味をもつようになりました。

今回外部の病院に研修に行った目的も主に呼吸器内科の勉強のためでしたが、研修先で、気管支鏡や胸腔穿刺・ドレナージの手技、肺炎や肺癌、慢性呼吸器疾患などの治療・管理について、たくさん勉強させていただきました。個人としても、呼吸器疾患以外の内科の管理について勉強したり、講演会や勉強会に参加させていただいたりしておりますが、志望科で働くことを考えて勉強することに非常に楽しさを感じております。

研修医の同期や後輩、上級医の先生方、看護師さん、技師さん、薬剤師さん、病院のスタッフの方々に限らず、救急隊や地域の方々、患者さんやその家族の方々など、今までたくさんの方にお世話になり、多くの診療を経験させていただきました。この場をお借りし、深く感謝申し上げます。いただいた恩恵を忘れずに、これからもたくさん働いて、岩手の医療に貢献し、還元していこうと思います。

# 気仙学術講演会

(糖尿病性腎症疾病管理強化対策事業)

岩手県糖尿病性腎症重症化予防プログラムの実践事業の一環として岩手県医師会から受託している本事業について、令和7年度は二つの講演会事業を開催いたしました。

## 【糖尿病講演会】

◎ 開催日：令和7年10月22日（水）19：00～20：30

◎ 会場：大船渡プラザホテル（対面+WEB形式）

講演会は、岩手県立大船渡病院副院長久野良徳彦先生が座長を務められ、一般講演では岩手県立大船渡病院看護師（日本糖尿病診療指導士）千葉円先生から「当院の糖尿病診療チームの取組み」と題して講演いただきました。千葉先生からは、①糖尿病透析予防指導②いきいき健康教室③糖尿病透析予防判定会議④フットケアについて、項目ごとに取組状況を説明いただきました。



また、特別講演では、岩手医科大学医学部内科学講座糖尿病・代謝・内分泌内科分野教授石垣泰先生から「日本人の病態と合併症予防を考えた2型糖尿病治療」と題して講演いただきました。石垣先生からは、①糖尿病管理のための薬物治療②糖尿病治療薬の選択③糖尿病性腎症の臨床経過④糖尿病におけるCKD有病率⑤糖尿病合併高血圧⑥糖尿病関連腎臓病(DKD)の治療⑦DKD進展抑制の治療選択肢などについて、それぞれ詳しく説明いただきました。参加者は、医師、薬剤師、行政担当職員等57人でした。



## 【腎症講演会】

◎ 開催日：令和7年11月25日（火）19時00分～

◎ 会場：大船渡プラザホテル（対面形式）

講演会は、岩手県立大船渡病院参与氏家隆先生が座長を務められ、Special Lectureでは、岩手医科大学医学部内科学講座腎・高血圧分野教授旭浩一先生から「かかりつけ医が担う慢性腎臓病（CKD）診療の治療」と題して講演いただきました。旭先生からは、糖尿病性腎症の初期ポイントとしての蛋白、血尿、腎機能の評価及び診断、糖尿病性腎症病期分類とCKD重症度分類、かかりつけ医から腎臓専門医・専門医療機関への紹介基準、CKD診療の基本的進め方、慢性腎臓病における早期治療介入の重要性、SGLT2阻害薬の臓器保護的効果などについて詳しく説明いただきました。



引き続き、氏家隆先生が座長となりDiscussionが開催され、岩手県立大船渡病院 循環器内科医長 押切祐哉先生から症例①「慢性腎臓病を併発している心不全患者」について、糖尿病内科医長 清水潤先生から症例②「健康診断にて糖尿病疑いと指摘された症例」について、泌尿器科医長 町田愛里沙先生から症例③「2型糖尿病患者を併発していない慢性腎臓病患者」についてそれぞれお話いただき、症例ごとに会場の先生方との質疑応答が行われ、まとめとして旭浩一先生から各症例に関して助言がありました。最後は当会会長鶴浦哲朗先生から各先生方へのお礼のことが述べられ閉会となりました。

参加者は、医師、薬剤師、行政担当職員など37人でした。



# 令和7年度 小児科救急医師研修会

【岩手県医師会委託事業】

令和7年11月21日（金）18時30分より岩手県立大船渡病院3階大会議室にて、令和7年度小児科救急医師研修事業ブロック別医師研修会が開催されました。司会は、総務部長医療法人盛紀会鳥羽整形外科医院院長鳥羽有先生、講師は、独立行政法人国立病院機構盛岡医療センター統括診療部長佐々木美香先生に「食物アレルギーとアナフィラキシー：最近の情報と対応Take3～最新の食物アレルギー情報と全年齢層におけるアナフィラキシー対応およびエピペン（TM）使用の確認」と題し講演いただきました。



佐々木美香先生は、年々ナッツ類での発症事例が多くなってきていることに加え、ナッツ類は焼き肉のたれなど様々な種類の調味料に入っているため注意が必要であり、中でもマカダミアナッツは非常に危険であること。海藻のふのりを食べて初めてアレルギーが確認されたこと、大人の初発や卵黄アレルギーが多くなってきていること、気仙地域はスギ花粉のアレルギーが特に多いこと。また、エピペン成分はアドレナリンであり人体にある物質のためアナフィラキシー症状が確認された場合はためらわず打つこと。また、エピペンは現場で使用されるもので、病院でアドレナリン注射を打つことになるが、その場合静注ではなく筋注であること。アナフィラキシーの症状は、呼吸と神経の症状を診ることが大事で声のかすれや鼻水、くしゃみなどが出ているか確認が必要であることなど様々な事例を紹介しながら講演いただきました。

参加者からは現場での対応方法などについて質問が出されるなど、有意義な研修会でした。参加者は、35人でした。（医師、看護師、栄養士、消防署救急隊員）



## ● 会員の異動

**退 会**

(B会員)

井 上 博 先生 医療法人希望会 希望ヶ丘病院 令和7年9月30日

### ◆ けせん医報へのご投稿募集 ◆

本誌は、気仙医師会の広報誌です。

年3回、4ヶ月ごとに発行しております。

会員の皆様や本誌をご覧になられてた方からのご投稿をお待ちしております。

セミナーや勉強会、各種医療活動、思い出、エピソード、感想、トピックスなど、ご自身が掲載を望むものがありましたら、是非、ご投稿下さい。お待ちしております。

詳しくは、下記までお問い合わせください。

気仙医師会広報部 事務局担当：寺澤・高濑

TEL：0192-27-7727 FAX：0192-26-2429

Email：mail@kesen-med.ne.jp